

きゅうりこれからの管理

11月に入り朝晩の冷え込みも厳しくなってきます。抑制胡瓜につきましては栽培後半又は終盤へと入ってきます。抑制栽培・促成栽培共に病気の多発傾向になってきますので、管理・防除徹底を行っていきましょう。

また、焼け果の発生も見られる時期になります、温度湿度管理には注意して下さい。

『抑制胡瓜について』

外気温が低くなるにつれ果実肥大が鈍くなってきます。肥大促進のために午前中の温度確保を行ないましょう。整枝作業につきましては全体的に側枝の動きを見ながら、鈍いようであれば伸びすぎている枝のみを摘芯し摘葉中心の管理を行い、側枝の動きが旺盛な場合は、摘芯摘葉共に整理して行きましょう。

今年の抑制胡瓜につきましては、定植初期からの天候不順続きにより根の張りが例年と比較し少ない傾向が見られますので、発根剤及び葉面散布は定期的の実施しましょう。

日照時間が短いので、採光性を重視した摘葉作業を行って下さい。収穫終了20日前には側枝の摘芯を行ない果実肥大を促しましょう。

『促成胡瓜について』

力枝への成りグセを付けさせることが重要になります。ハウスの閉め込みは早々に行なわないようにして下さい。力枝が伸び急ぐ場合には内ビニールは加温機が回り始めてから閉めるようにして下さい。また、今年は地温が上がりにくいことが想定されます。地温計を設置するなどの対応を講じ、圃場の地温確認をこまめに行って下さい。

果実の肥大が順調であれば、温度確保を行ない肥大促進をさせましょう。

力枝の振り分けについては基本垂れすぎないようにしますが、枝の動きが旺盛な場合は幾らか下げておくことも弱らせる手段ですが、上げるタイミングが遅れないように注意して下さい。

『灌水・追肥について』

灌水については、地温を下げないように一度の多灌水は避けるようにしましょう。

液肥につきましては灌水時に毎回投入するようにしましょう。定期的な発根剤やアミノ酸系の液肥の施用も心掛けて下さい。

また、葉面散布も定期的に行い草勢維持に努めて下さい。葉面散布を散布する際には、葉色が十分ある状態で散布してください。葉色が薄い状態での散布は効果が余り上がりません場合があります。

葉面散布は3日おきに行うのが目安です。少量散布でも構いませんので、できる限り散布していきましょう。なお、必ず散布後葉が乾くことが条件です。

葉面散布剤：パワフルグリーン2号、ベストII

亜リン酸肥料：ホスプラス

アミノ酸系肥料：アミハート

発根剤：RBパワー、夢

『病害虫について』

近年、11月に天候が崩れることが多いようです。また、今年は抑制でもつる枯れ病の発生が確認されましたので、上旬までにはつる枯れ病の予防として、スミレックス水和剤の散布を行ないましょう。ローテーション防除による薬剤散布を徹底して下さい。

黄化えそ病対策

抑制栽培の方につきましては、半促成栽培への発生低減を図るため、スリップス防除の徹底を行い密度を減らしましょう。収穫終了後は必ず蒸し込みを行い、生のまま残渣をハウス外へ持ち出すのはやめましょう。

蒸し込む際にはハウス内に雑草があるとスリップス生き残る場所になりますので、除草の徹底を行って下さい。

黄化えそ対策は、徹底することに越したことはありません。十分な対策を行って下さい。

発生株の早期発見、早期抜根の徹底を行い、発生本数の低減に努めて下さい。

果樹園の管理(11月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。11月の果樹管理は以下の通りです。

1. 日向夏の管理

1) 夏秋梢の除去

夏芽、秋芽の除去を行ってください。

方法は春枝まで戻り、間引き剪定を行ってください。また、強い立ち枝についても除去して下さい。

2) 病虫害防除

袋掛けを行いますが、袋を掛ける際はハダニの防除を徹底しましょう。

秋ダニの発生が見られます。7月～8月に袋かけを実施した園では、ハダニの発生に注意して下さい。

2. スイートスプリングの管理

1) 病虫害防除

12月より収穫となります。病虫害防除は極力避けて下さい。散布される場合は使用基準を厳守して下さい。また、サビダニ、ハダニの発生には十分ご注意ください。発生が確認された場合は対象薬剤の選択がありますので生産指導課までご連絡ください。

ペンコゼブ水和剤、ジマンダイセン水和剤については収穫前使用日数が90日前までとなっていますので12月収穫では散布できません。

3. 温州みかんの管理

1) 収穫出荷について

出荷が始まっていますが、出荷基準を厳守して出荷を行ってください。

2) 病虫害防除

カメムシが発生しています。予防的な散布を実施し、被害を抑えましょう。

また、腐敗病対策も行ってください。

病虫害名	使用薬剤	使用倍数	使用時期
カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日まで
	テルスター水和剤	2000倍	前日まで
褐色腐敗病	ランマンフロアブル	2000倍	前日まで
	アリエッティ水和剤	800倍	前日まで

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用してください。少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先……生産指導課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

朝晩の冷え込みが徐々に厳しくなる時期になりましたが、年々本格的な冷え込みは遅くなっており、今後もしばらくは日中の気温の高い日が予想されます。

長期予報では11月も平年より気温が高い傾向が予想されています。

気温が高い分、晴天で乾燥状態が続くと、虫害の発生が心配されます。虫害による品質低下にならないよう、圃場周辺の草対策など予防策を十分に行ってください。

気温の変動の大きな時期でありますので体調に留意し、管理作業を行ってください。

<今後の管理について>

・白ネギ・



12～22℃がネギの生育適温です。気温が12℃以下になると生育が遅くなり、軟白しにくくなります。こまめに土寄せを行い、軟白部分が多くなるように管理して下さい。

追肥は、生育状況に応じて行いますが、出荷前30日頃に、最後の追肥として「粒王7号」を2袋/10a施用して下さい。また、スリップスの食害痕は品質低下の原因となりますので注意して下さい。

・人参・



本年は播種時期に曇雨天が多く、圃場の準備が遅れ、播種・生育が遅れている傾向があります。また、圃場によっては除草の遅れ、徒長気味の生育も見られています。

間引きが不足している圃場では、本葉10枚目の頃に株間が10～12cmあるかを確認し、秀品率を高めるようにして下さい。

畦の土が流れた状態では、根の肩部が表面に露出し青くなり、秀品率の低下につながりますので、中耕・除草を行う時に軽く土寄せを行ってください。

出荷後の貯蔵中での腐敗が毎年発生しています。収穫を行う時は、雨上がりや土が乾燥していない場合には行わないようにして下さい。また、小規格の受入れはしていませんのでご注意下さい。

・大根・



発芽～生育初期の害虫（ダイコンサルハムシなど）による被害が増えています。昨年も多くの発生と被害が見られました。農薬の使用をする場合は事前に問い合わせをして下さい。

間引き後は土寄せを行い、風や乾燥などにより根が傷むことがないように注意して下さい。

間引き菜を利用する際、農薬の収穫前日数にご注意下さい。

・水田ゴボウ・



霜が降りる前に保温材を被覆して下さい。葉裏にアブラムシが付着していると保温材を被覆した時に増殖し、生育を阻害します。農薬の使用は出来ませんので必ず予防策を行うようにして下さい。

播種後、圃場周辺にシルバーテープを設置するなど、アブラムシ忌避対策を行ってください。

・ブロッコリー・



一番大きい葉が45cm位であれば、花蕾が8 cm以上の大きさになります。重量を稼ぐには、追肥・土寄せを行い、草勢を良くし、茎を太くして下さい。

ヨトウムシなどの被害は秀品率低下、搬入時の異物混入の原因となります。早めの対策を行って下さい。

・簡易施設野菜・

播種日は守って下さい。コナガ・アオムシ・ヤサイゾウムシ等の発生による食害痕は品質低下となりますので予防策を十分行って下さい。

・レタス・



定植日の適期を守って下さい。活着が悪いと玉太りも悪くなります。若苗を定植するようにして下さい。病虫害の防除は適期に行うようにして下さい。

農薬を使用しない場合は、予防策を十分行うようにして下さい。